



## アメリカ社会混迷の兆し (大統領選挙に想う)

11月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2020年10月30日(金)

11月3日(火)の米国大統領選挙の投票日まであと4日を残すのみである。

10月28日(水)渡辺靖先生の「アメリカ社会の変化と大統領選の行方」という講演を聴いた。印象はアメリカ社会の混迷であった。

アメリカ国民による**直接選挙**というイメージしかなかったので、その仕組みにはいささか戸惑った。まず、「**有権者**」は、事前に登録した18歳以上の国民、その有権者が、大統領にふさわしいと思った人に投票する。「**投票**」は「**州ごと**」に行われ、それぞれの州での勝者が決まり、「**選挙人**」を獲得する。

州によって選挙人の数は決まっており、勝者が州の選挙人をすべて獲得する。全米には538人の選挙人がいて、その**過半数の270人以上**を獲得した候補が「**次期大統領**」となる。

この「**選挙人**」の獲得が、当選者予想を困難にし、前回の選挙では、民主党のクリントン氏が、トランプ氏よりも300万票もの多い票を獲得したが、勝ったのはトランプ氏だった。要はトランプ氏が接戦州や激戦州での活動に勝り、選挙人を多く獲得したのだ。

現時点では、バイデン氏がトランプ氏を7.4%リードしている(前回はクリントン氏が2.2%リード)が**確実に優勢**とは言えないようだ。

大統領選挙と同時期に、**上院(3分の1)**、**下院(全員)**の選挙も行われ、現在上院(共和党53、民主党47)、下院(民主党232、共和党203)の勢力も変化し、上下院とも民主党が多数派になると予想されている。

**郵便投票の結果**も重要なカギだ。

前回は21%が郵便投票であったが、今回は50%を超すとされている。

コロナウイルス感染予防のために郵便投票を選ぶ人が増加するなか、民主党支持者の利用が多い**郵便投票をトランプ大統領は「不正」と決めつけている**。

仮に、**バイデン氏が新大統領になり、上院、下院の選挙も報道等の通り、民主党多数**となったとき、それでアメリカは**安定する**とは言えない。

白人至上主義者の言動は、より露骨になり、社会の一部のトランプ化は益々高まり、アメリカ社会は混迷化するであろうと言われている。

人種問題が拡大したうえ、公正な大統領選挙が行われないようなことにでもなれば、アメリカの持っていたイメージは大きく低下するだろう。

自由、平等、アメリカンドリームなどといった価値は過去のものとなりかねない。